

■ 「やさしい日本語」の特徴とは

- ① 小学校2・3年生で習う簡単なことばを使用
(日本語能力検定試験3・4級レベル)
- ② 1文が短い。(ひらがなだけで書くと24字以内)
- ③ 災害時によく使われることばや知っておいた方がよいことばは説明を加え、そのまま使う。(「津波」、「避難所」、「余震」など)
- ④ カタカナ外来語はできるだけ使わない。(「デマ」など)
- ⑤ ローマ字は使わない。
- ⑥ 擬態語や擬音語は使わない。
- ⑦ 使用する漢字や使用量に注意し(1文あたり3、4字)、全てにルビを振る。
- ⑧ 名詞化された動詞は分かりにくいため、できるだけ動詞文にする。
- ⑨ あいまいな表現は避ける。
- ⑩ 二重否定は避ける。
- ⑪ 文末表現はなるべく統一する。
- ⑫ ことばのまとまりを認識しやすいよう、短いポーズを多く用いる。

【参考文献】 「やさしい日本語」作成のためのガイドライン

発行者：弘前大学人文学部社会言語学研究室